

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance Ⅲ						
単位数	2	時間数	30	担当者	濱中美紀		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	NPO法人にてボランティア支援		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	事例やグループワークを通して、ソーシャルワークにおける各種アプローチ等の理論背景を学ぶ。学生が自身の意見や考えをもとにソーシャルワークの理論を体得できるようにする。その上で、自身が目指すソーシャルワーク像を描き、専門職として働く意識と価値を高めていくこと実践力につなげる。						
授業形式	講義	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		ソーシャルワークとは何か、価値を理解する。	
	○	○		○		ソーシャルワークの各種理論を理解し、ワーク等で用いることができる	
		○		○		各専門職の中でのソーシャルワークが果たす役割を理解し、自身のソーシャルワーク像をもつ。	
		○		○		専門職としての意識を高め、社会問題に意欲的に向き合い、考えをもつ。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス				理解度確認	
	2	ソーシャルワークの理論と実践①				講義、事例検討、グループワーク	
	3	ソーシャルワークの理論と実践②				講義、事例検討、グループワーク	
	4	ソーシャルワークの理論と実践③				講義、事例検討、グループワーク	
	5	相談援助における社会資源の活用・調整・開発①				事例検討、グループワーク、講義	
	6	相談援助における社会資源の活用・調整・開発②				事例検討、グループワーク、講義	
	7	相談援助における社会資源の活用・調整・開発③				事例検討、グループワーク、講義	
	8	連携・協働・コーディネーション・ネットワークングの意義と方法①				事例検討、グループワーク、講義	
	9	連携・協働・コーディネーション・ネットワークングの意義と方法②				事例検討、グループワーク、講義	
	10	相談援助における実践モデルとアプローチ①				講義、グループワーク	
	11	相談援助における実践モデルとアプローチ②				講義、グループワーク	
	12	スーパービジョンについて				講義、グループワーク	
	13	スーパービジョンについて				講義、グループワーク	
	14	国家試験対策				講義	
15	国家試験対策				講義		
評価方法	①授業の出席状況②授業への参加度、内容の理解度③定期試験を実施する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記試験)	○	◎				60%
	授業への参加度・理解度	◎	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、評価の対象としない						

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学教員		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	第4巻(2学年)と第5巻(本学年:3年生)は同一の科目であり、連動している。第5巻のねらいとしては、『相談援助活動の展開、地域移行支援、地域を基盤にした相談援助の主体と対象、ケアマネジメント、地域を基盤にした支援とネットワーキング等からなる。』『地域を基盤に』が強調されているように、第5巻では地域を基盤にした支援や展開の基本的な考え方や必要な技術を中心に授業を行う。 ※ 新精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」「はじめに」を参照。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	△		○		1. 精神障害を対象とした相談援助技術(個別援助・集団援助の過程と相談援助に係わる関連援助や精神障害者と家族の調整および家族支援を含む)の展開について理解する。	
	○	△		○		2. 精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方や支援体制の実際について理解する。	
	○	△		○		3. 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係わる組織、団体、関係機関および専門職との連携についての理解を含む)の実際について理解する。	
	○	△		○		4. 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健活動)の意義と展開について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(中央法規 第5巻) 参考図書:授業中に紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	2	Ⅴ:地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方 1、地域ネットワーク			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	3	2、アウトリーチ 3、地域生活支援事業と訪問援助			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	4	4、セルフヘルプグループおよび家族会 5、精神保健福祉ボランティアの育成と活用			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	5	Ⅵ:精神障害者のケアマネジメント 1、ケアマネジメントの原則 2、ケアマネジメントの意義と方法			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	6	3、ケアマネジメントの展開過程 4、チームケアとチームワーク			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	7	5、事例による精神障害者ケアマネジメントの事例			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	8	Ⅶ:地域を基盤にした支援とネットワーキング 1、地域を基盤にした支援の概念と基本的性格			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	9	2、地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	10	3、地域を基盤にした支援の具体的展開			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	11	4、事例による地域を基盤にした支援の検討			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	12	Ⅷ:地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 1、包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	13	2、事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討			テキストの該当部分を読んでおくこと		
	14	後期授業 振り返り			テキストの該当部分を読んでおくこと		
15	総括			テキストの該当部分を読んでおくこと			
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
授業態度・参加度				◎		10%	
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	交流ゼミⅢ-②					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	馬場 一美	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員	
対象学科・学年	福祉心理学科3年					
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	2	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	3	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	4	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	5	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	6	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	7	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	8	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				○	
						評価割合
						100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。					

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント(ファイルを用意)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	3	就職活動指導③(履歴書作成・添削)			就職ガイドブック該当部分を読み、履歴書を作成する		
	4	就職活動指導④(履歴書作成・添削)			就職ガイドブック該当部分を読み、履歴書を作成する		
	5	就職活動指導⑤(履歴書添削・面接対策)			就職ガイドブック該当部分を読み、面接の準備を行う		
	6	就職活動指導⑥(履歴書添削・面接対策)			就職ガイドブック該当部分を読み、面接の準備を行う		
	7	就職活動指導⑦(小論文)			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	就職活動指導⑧(筆記試験)			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9	就職活動指導⑨(就職活動状況報告)					
	10	学校行事準備①(役割分担・ディスカッション)					
	11	学校行事準備②(役割分担・ディスカッション)					
	12	社会人としてのマナーの習得(復習)			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	13	社会人としてのマナーの習得(復習)			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	14	学科行事(テーブルマナー)			該当科目を復習しておく		
15	学科行事(テーブルマナー)			該当科目を復習しておく			
評価方法	提出物は各期限を設定する。行事を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○			◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
提出物状況				◎		30%	
履修上の注意	出席率が90%以上でなければ学校求人への応募はできないため、就職活動に影響があることに注意が必要。 出席が2/3に満たない場合は成績評価を行わない。						

科目名	金曜ゼミⅡ					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場 一美	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員	
対象学科・学年	福祉心理学科3年					
授業概要	社会人になるために必要なマナーを含め、福祉職として働くうえで必要な知識、技術を実際の現場で経験し、就職活動をすすめていく。就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自習実習を計画的に実施する。さらに、地域にある施設・事業所等の理解を深め、連携できる力を涵養する。					
授業形式	講義:	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
			○	○	福祉事業所等で自主的に活動することが出来る。	
	○	○		○	社会人に必要な「報告・連絡・相談」をすることができる。	
		○			各事業所等の仕事を理解することができる。	
				○	希望就職施設または企業から内定をもらう。	
			○	地域の社会資源を知り、連携できる。		
テキスト・教材 参考図書	金曜ゼミ報告書					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。	
15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)			自主実習先へアポイントをとる。 予定表及び報告書の作成・提出。		
評価方法	活動報告書がない場合は出席とみなさない。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				◎	
	活動報告書	○	○	○	◎	
履修上の注意	活動予定表の提出及び報告書の提出が提出期限内にない場合は出席とみなさない。 出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。					

科目名	福祉行財政と福祉計画						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設での相談業務 施設の運営管理		
対象学科・学年	福祉心理科 3年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○	○	行政や財政が自分たちの生活にどのように関わっているのかを知り、言語化できる。	
	○	○		○	○	行政用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。	
	○	○		○	○	財源や税金の在り方を学ぶことで、お金の大切さや税金の意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。	
	○	○		○	○	計画の立て方やその後に行うことを学び、実生活に活かし目標を達成に向けて取り組むことができる。	
	○		○	○		進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎新社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』 ○社会福祉士養成講座研修委員会 中央法規 時事話題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			この科目の注意事項を伝えます		
	2	福祉とは その成り立ち			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	福祉と制度			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	行政の骨格			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	福祉行政の組織			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	社会福祉基礎構造改革			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	行政の相談窓口			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	予算と財政(国の収支)			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	予算と財政(地方の財政)			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	計画とは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	福祉におけるニーズ把握			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	福祉計画の理論と技法			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	福祉計画の目的と意義、住民参加			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	組織・集団とストレングス			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	学びと成長			ニュース・新聞等で自治情勢を知る			
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				68%
	小テスト・レポート	◎	○				15%
グループワーク・発表	◎	○		◎	○	17%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会福祉協議会にて 社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	低所得者の生活実態と福祉需要及び、現代の新たな貧困や格差拡大における背景にある社会経済状況、および生活保護制度や低所得者対策、関連する雇用・住宅等の諸施策等について学び、ソーシャルワーカーに必要な生活保護制度や関連諸制度に関する知識を習得するとともに、これらの分野におけるソーシャルワーカーの役割、他職種との連携に関する知識についても習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		公的扶助の概念と範囲意義と役割を理解する。	
		○		○		ホームレスや低所得者を取り巻く社会環境を理解する	
	○			○		生活保護制度の理念や基本的な運用方法について理解を深める	
	○			○		生活困窮者自立支援法の制度や実施体制について理解を深める	
	○			○		その他生活困窮者に対する諸制度・サービスについて理解を深める	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション～「貧困・生活困窮」の実態を理解する～ VTR視聴			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	貧困と格差の現状を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	公的扶助の概念・意義・役割/社会保障との違い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	公的扶助制度の歴史①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	公的扶助制度の歴史②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	生活保護制度の仕組みと動向①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	生活保護制度の仕組みと動向②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務①			生活保護制度について事前学習をしておくこと		
	9	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務②			生活保護制度について事前学習をしておくこと		
	10	生活困窮者支援の現場を知る(巡回ふくおか訪問)			福岡市のホームレス支援体制について調べておく		
	11	低所得者対策の概要①～生活困窮者自立支援法～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	低所得者対策の概要②～生活福祉資金貸付制度他～			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	生活保護制度の運営実施体制と関係機関・団体(福祉事務所の組織と役割)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	生活困窮者支援現場(抱撲館福岡)見学			福岡市の生活困窮者支援体制について調べておくこと		
	15	子どもの貧困の現状と対策～スクールソーシャルワーカーの現場～			スクールソーシャルワークの実際について学ぶ		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	宿題・レポート	◎	◎				20%
	出席状況				○		10%
発表・作品							
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理科 3年						
授業概要	措置制度の時代からの名残であろうか現在でも通常のサービスと福祉サービスを別物として捉え、誤った理解がされている。世間だけでなくサービス提供する側でさえも多くの者が未だにその認識のままである。この授業では、契約制度の福祉サービスは今や身の回りにある一般のサービスと何ら遜色ないことを理解し現在の福祉サービスの概要だけでなく、組織や経営面まで学んでいく事で現場及び経営者側の両方の視点を身に付け、社会で応用できる力を養っていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			福祉サービスの概要について説明することができる	
	○		○			組織の概要を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 福祉サービスの組織と経営						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サービスの理解				授業外学修指示	
	2	福祉サービスの理解				授業外学修指示	
	3	経営管理の理解				授業外学修指示	
	4	経営計画の理解				授業外学修指示	
	5	法人の種類と概要				授業外学修指示	
	6	社会福祉法人についての理解				授業外学修指示	
	7	NPO法人についての理解				授業外学修指示	
	8	組織の理解				授業外学修指示	
	9	集団の理解				授業外学修指示	
	10	グループダイナミクスの理解				授業外学修指示	
	11	リーダーシップの理解				授業外学修指示	
	12	サービスマネジメントの理解				授業外学修指示	
	13	全体のまとめ				授業外学修指示	
	14	特別授業(タイムマネジメント)				授業外学修指示	
15	特別授業(コミュニケーション)				授業外学修指示		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
発言・質問・学習姿勢				◎		30%	
履修上の注意							

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)	social reseach						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下朋子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会調査に携わったことがほとんどないと思われるが、今後ますます社会福祉専門職にとって重要となる。身近な問題や起こり得る生活課題を扱ながら、実際に調査の企画から結果考察までの一連の流れを体験することで実感の伴う知識の習得を目指す。①社会調査の意義と目的、②統計法(社会調査における倫理および個人情報保護)、③統計手法、④量的調査の方法、⑤質的調査の方法、⑥社会調査の実施にあたってのITの活用等						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		社会調査の意義・目的を説明することができる。	
	○			○		社会福祉領域の社会福祉調査の重要性を説明することができる。	
	○			○		社会調査にかかわる法律や倫理の重要性について説明できる。	
	○			○		量的・質的調査方法を説明できる。	
		○		○		社会現象の背景を推察し、「問い」をたてることができる。	
	○		○		初歩的な統計分析のいくつかを理解し活用することができる。		
テキスト・教材 参考図書	参考図書 米川和雄『ソーシャルワーカーのための社会調査の基礎 入門から社会福祉士国家試験対策まで』北大路書房 斎藤嘉孝『社会福祉調査 企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会調査とは ①社会調査の意義・目的、②社会調査の対象、③ソーシャルワークと社会調査			自分が調査したいこと		
	2	統計法、基幹統計 等			どのような情報があると個人を特定できるか		
	3	倫理と個人情報					
	4	量的調査 全数調査と標本調査横断調査と縦断調査					
	5	質問紙の作成方法と留意点:質問で避けること、順番など			教員が提示した内容の質問文を作成し、次回持つてくる。		
	6	調査票の作成					
	7	量的調査のデータの集計と分析方法:単純集計とクロス集計等					
	8	最頻値、中央値、平均値など					
	9	質的調査の内容:質的調査と量的調査の関係					
	10	質的調査の方法:観察法と面接法					
	11	質的調査における記録:フィールドワークの記録、データの資料化					
	12	質的調査のデータ整理と分析:結果の図式化、KJ法とGTA法			ITで資料を集める「自分の住む町の地域福祉計画」をダウンロードし概観する		
	13	ITの活用方法:文献検索					
	14	報告書のまとめ方とプレゼンテーション					
15	まとめ 試験に向けて						
評価方法	①定期試験、②振り返り提出、						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	ふりかえり	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	状況によって授業内容を変更することがある。授業を円滑に進行するためには、課題は必ず作成して来ること。スマホ等の携帯電話は、カバンの中に片付けておくこと。積極的な発言と質問を期待します。 ※5回の欠席で定期試験を受ける権利は消滅することを理解しておくこと。						

科目名	相談援助演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山 かおり		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	精神科病院にて相談員(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	相談援助実習後における相談援助に係る知識と技術について個別の体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別の体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげ、②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標(到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○	○		社会福祉士、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し、説明できる。		
	○	○			専門的援助技術として概念化し実践場面の中で活用できる。		
	○	○	○	○	卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。		
テキスト・教材参考図書	適宜、資料配布						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明			実習日誌		
	2~8	精神保健福祉援助実習における学生の個別体験の一般化及びグループワーク、個別面談による事後指導			精神保健福祉援助実習Ⅱの振り返りを行っておくこと。PP作成、報告会資料作成		
	9,10	実習評価全体総括会(実習報告会)			レポート提出		
	11,12	事例:社会的排除	第11回以降、設定した事例を題材にして、相談援助場面及び相談援助の過程を想定したグループワーク及びロールプレイを行い、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価等の実技指導を行う。		授業内で提示		
	13,14	事例:虐待(高齢者)			授業内で提示		
	15,16	事例:虐待(児童)			授業内で提示		
	17,18	事例:家庭内暴力(D.V)			授業内で提示		
	19,20	事例:貧困、低所得、ホームレス			授業内で提示		
	21,22	事例:貧困、低所得、ホームレス			授業内で提示		
23,24	その他の危機的状態にある相談援助事例(権利擁護活動を含む)	授業内で提示					
25,26	卒業研究	授業内で提示					
27,28	卒業研究	授業内で提示					
29,30	卒業研究発表会	授業内で提示					
評価方法	宿題・レポートを実施する。実習報告会を実施する。授業への参加度、プレゼンテーションを含め、卒業研究を定期試験に匹敵するものとして評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		○		◎		30%
	授業態度・授業への参加度			○	◎		30%
発表・作品	○	○	○	◎		40%	
履修上の注意	これまで学んだことの復習をして理解を深めておくこと。精神保健福祉援助実習Ⅱでの体験を振り返り、各自の課題を整理して、演習に積極的に参加すること。出席が2/3に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	不登校・引きこもり援助論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	矢野隆子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	スクールカウンセラーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について学ぶ。 将来の不登校・ひきこもりへの援助者としての主体性を高めるために必要な知識を習得することを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				不登校・ひきこもりの子どもたちの課題について知る。	
	○	○				不登校・ひきこもりの子どもたちへの様々な支援方法について知る。	
	○	○				不登校・ひきこもりの問題解決に必要な支援について、文章にまとめることができる。	
	○	○		○		不登校・ひきこもりの問題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書「引きこもるといふ情熱」 芹沢俊介 雲母書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	引きこもりの背景や現状を知る(総論)			参考図書を事前に読んでおくこと		
	2	不登校・ひきこもりに関する問題と課題(総論)			配布資料の復習		
	3	不登校・ひきこもりの子どもの心理と関わり方 -具体的対応-			配布資料の復習		
	4	福岡県の不登校・ひきこもりの動向と支援の制度①			配布資料の復習		
	5	福岡県の不登校・ひきこもりの動向と支援の制度②			配布資料の復習		
	6	教育現場における支援活動の実際について①			配布資料の復習		
	7	教育現場における支援活動の実際について②			配布資料の復習		
	8	不登校・ひきこもりと精神医学①			配布資料の復習		
	9	不登校・ひきこもりと精神医学②			配布資料の復習		
	10	不登校の子どもを抱える家族とその支援①			配布資料の復習/文書作成準備		
	11	不登校の子どもを抱える家族とその支援②			配布資料の復習/文書作成準備		
	12	不登校の子どもから見た、求められる支援のあり方			配布資料の復習/文書作成準備		
	13	不登校解消に向けた校内外連携によるシステムづくり			配布資料の復習/文書作成準備		
	14	発達障害の子どもと不登校 不登校の子どもへの様々な支援			文書作成準備		
15	生涯学習支援についてと伴走型サポートについて/文書整理準備			文書作成準備			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	宿題・レポート(授業感想)	◎	◎				20%
	態度・意欲・出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席回数が10回に満たない場合は科目履修認定を行わない						

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	3年間の養成課程の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		心理を探究し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
		○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション／卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定			授業内で提示		
	3	テーマ決定とグループの決定			授業内で提示		
	4	各グループでの研究活動			授業内で提示		
	5	各グループでの研究活動			授業内で提示		
	6	各グループでの研究活動			授業内で提示		
	7	中間発表			授業内で提示		
	8	各グループでの研究活動			授業内で提示		
	9	各グループでの研究活動			授業内で提示		
	10	本発表に向けて論文の完成			授業内で提示		
	11	本発表に向けて論文の完成			授業内で提示		
	12	発表に向けてパワーポイントの作成			授業内で提示		
	13	発表に向けてパワーポイントの作成			授業内で提示		
	14	本発表					
15	本発表						
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
出席状況				◎		10%	
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						